

各位

上場会社名 ザインエレクトロニクス株式会社
 代表者 代表取締役社長 飯塚哲哉
 (コード番号 6769)
 問合せ先責任者 取締役経営企画部長 高田康裕
 (TEL 03-6860-0666)

営業外費用、特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩し並びに平成23年12月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年12月期において営業外費用及び特別損失を計上するとともに、繰延税金資産を取崩すことになりました。またこれらの結果、平成23年6月17日に公表した業績予想を下記の通りに修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,010	△855	△627	△791	△6,502.60
今回修正予想(B)	3,597	△950	△941	△1,209	△9,979.99
増減額(B-A)	△413	△95	△313	△417	
増減率(%)	△10.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績(平成22年12月期)	7,381	407	341	219	1,805.54

平成23年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,010	△931	△703	△850	△6,980.49
今回修正予想(B)	3,597	△979	△967	△1,230	△10,150.00
増減額(B-A)	△413	△48	△264	△380	
増減率(%)	△10.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績(平成22年12月期)	7,381	398	332	212	1,744.24

修正の理由

- 営業外費用(為替差損)の発生及びその内容(連結・個別)**
 昨今の為替相場の変動により、当期において、為替差損104百万円を営業外費用に計上することといたしました。これは主に当期末時点で当社が保有する外貨建資産(主に預金)を同日の為替相場で評価したことにより発生した為替差損であります。
- 特別損失の発生及びその内容(連結・個別)**
 当社は、販売管理費の削減の一環として、平成24年4月下旬を目処に本社を移転することを決定しました。この本社移転により発生が見込まれる費用のうち90百万円を当期において移転費用引当金及び臨時償却費として計上することといたしました。
- 繰延税金資産の取崩し及びその内容(連結・個別)**
 当期の業績悪化及び最新の事業環境を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、当期において取崩し、法人税等調整額として177百万円計上することといたしました。
- 業績予想の修正理由(連結・個別)**
 当社の重要市場である液晶テレビ向け製品等の市場環境が当期において急速に激変しました。マルチファンクションプリンタに代表される事務機器、アミューズメント、車載向け製品につきましては計画に比べて約3割増の出荷となり、国内テレビ市場向け製品およびスマートフォン等の携帯電話向け画像処理用LSI製品は概ね計画通りの出荷となりました。
 一方、韓国および台湾のテレビ市場向け製品は計画に対して約3分の2の出荷数量となり、これにより全体として、製品の出荷が予想を下回るようになりました。また、これに伴い、テレビ市場向け製品在庫のうち、販売見込みが不透明な一部製品在庫につきまして、当期において評価損1億33百万円を売上原価に計上することといたしました。研究開発費は18億7百万円と計画よりも7.2%削減し、販売管理費を24億65百万円と計画よりも8.0%削減する見込みですが、営業利益が前回予想を下回る見通しとなりました。
 上記の要因により、経常利益・当期純利益につきましては、加えて上記1～3の発生により前回予想を下回る見通しとなりました。

(注)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。